

情報通信月間参加行事 報告書

行事 ID	C054	行事名	TTCオンラインセミナー「Society 5.0の実現と標準化 ～電子商取引における最新のセキュリティ関連動向～」	
行事形式	セミナー	主催団体	(一社)情報通信技術委員会 インターネットソサエティ日本支部 (ISOC-JP) 慶應義塾大学W3C (World Wide Web Consortium)	
開催日	10月9日		開催場所	Webセミナー(オンラインセミナー)
行事参加者数	179		WebサイトURL	https://www.ttc.or.jp/seminar/rep/rep20201009

行事实施概要・アピール等

Webやインターネットは世界中につながっており非常に多くの人々が利用しています。私たちの生活にとってなくてはならないものとなり便利である反面、危険も多く含んでいるといえます。

本セミナーは、世界各地においてCOVID-19(新型コロナウイルス感染症)が猛威を振るう中で注目を集めている「電子商取引とセキュリティ」をテーマに開催しました。

現在、COVID-19に対応するための社会的距離等の措置により、様々な情報を、インターネット等を介した非対面形式でやり取りすることが求められていることから、B2C(ビジネスから消費者向け)、B2B(ビジネス間)の電子商取引が増大し、今後のビジネスの展開に不可欠な要因となっています。

一方で、相手方や処理プロセスの正当性を直接確認することができないということから、なりすまし、取引の改ざん等による情報漏洩といったリスクも顕在化しています。

このような状況の中、標準化機関であるITU-T SG17、IETF、W3C、FIDO Alliance(※)等では、上記リスクを解消するセキュリティ技術に関する議論が活発に行われており、その成果は様々なビジネスに活用されています。

本セミナーでは、各団体の最前線で活躍する専門家から最新の議論動向や社会実装状況等をお話いただくほか、実際にその技術を活用しているユーザー企業から取組事例をご紹介いただきました。

前半は発表順に、電子商取引における情報の流れとそれに使われているセキュリティ関連で各標準化団体が取り組んでいる内容の概観の説明のあと、W3Cから標準化の塊と言われるクレジットカードの取り扱いにおけるWebPaymentを中心に展開され、ITU-T特にSG17におけるセキュリティを中心としたフレームワークの説明がありました。その後IETFにおけるセキュリティ関連動向の説明に続き、講演最後にはスマホなどでFIDO/WebAuthnにおけるパスワードのやり取りをなくすことにより信頼性を向上させた話が行われました。その後パネルディスカッションに入り、ビジネス現場におけるセキュリティを中心とした標準化の果たす役割について熱い議論が行われ、FIDOとの関連などが一連のストーリーとして展開され、改めて標準化の重要性を再認識しました。また遠隔で視聴している方からも活発かつ深い質問が寄せられ、予定された時間いっぱいにならないうちが盛り上がり交わされました。

←ロードバース...セル内で改行する時はAltを押しながらEnterを押してください。

